

二ひきのきつね

むかし、近崎村が、「知多の三崎」といわれとつた衣ヶ浦の、最も奥の海辺の村だつたころのことだ。村の北の方には、雑草がいつびやあ生えた原っぱがあつて、その西に雑木がぎょうさんしげつとる高根山があつた。そりやあ、さみしいところだつた。

いづごろからかわからんが、原っぱにやあ、村のもんが「お定」と呼んどのめんとおんたのきつねが住みついとつたんだと。またなあ、高根山の方には「多吉」といわれとるのきつねが住みついとつたんだと。またなあ、高根山の方には「多吉」といわれとるおんたのきつねが住んでおつただけな。どつちも、すこたがよかつたが、ちよびつとこすかつた。近崎村のもんは、となり村の阿野へ行つた帰りにやあ原っぱを通らんならん。そいで、帰りがおそくなつたときなんか、

「おらあ、きんによの晩げ、お定に化かされちやつて、おんなじ道をぐるぐる回されちやつたぎやあ。」

「おれなんか、馬ふんのだんごを食わされそうになつたぞ。」

「おらがのとなりの新助きは、肥だめの風呂に入らされたげな。」

などと、ぎょうさんのもんがお定に化かされたそうだ。

大脇おおわきや前後村ぜんごの帰りにやあ、高根山のわきを通らんならん。そのたんびに、
「正造しょうぞうさは、大脇のお祭りまつりで、はしご獅子舞ししまいを見てから帰ったが、家へ着いて親類しんるいで
もらって来た重箱じゆうばこを開けたら、中のごちそうがありやへんだったげな。きつと、多
吉たきちに取られたんだな。」

「わしは、ほとくれに入れておいたあぶらげあぶらげがのうなつとつた。」

などと、何人かが多吉たきちにちようらかされたげな。ほいでなあ。村では、

「おらあ、多吉とお定おさだが、こんきと連れ立つれだって歩あいているの」

を見たぞ。」

「ほんときゃあ、そんなら恋仲こいなかじゃにやあか。」

といった話が、うわさされていたんだなん。

「おれも、見てやあなあ。」

と、けなるがるもんもいたそうだ。

（うらやましがる人）



北崎地区に伝わる話です。近崎神明社の辺りがみさきになっていたようです。阿野・大脇・前後村は、今の豊明市南部の地域です。
知多の三崎というのは、師崎（南知多町）と亀崎（半田市）、それに近崎（北崎町）のことです。